

自然農園だより

宮下 洋子
Hiroko Miyashita

スクスク育つハウスのほうれん草

ハウスのほうれん草と小松菜は すくすく

4年目にして、

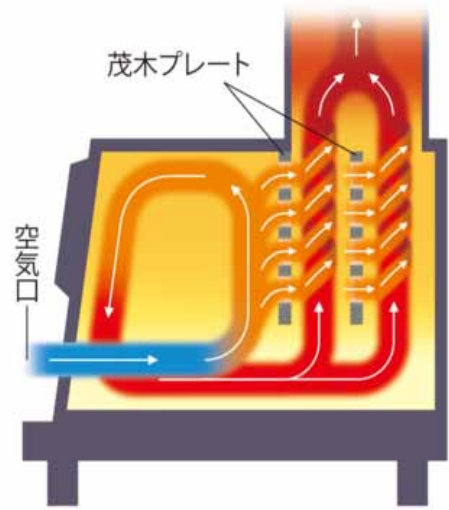
- ① ハウスの中の土がだんだん良くなってきたせいか、



- ② 新しい薪ストーブが設置されたせいか、
③ 水はけがいいように浸透枺を作ってあげたり、
④ サブソイラーで溝切りしたせいか。
⑤ 去年の畑仕舞（じまい）の時に、もみ殻堆肥と、ヌカをしっかりと播いてあげたせいか…、

温室の片側に植えた青菜類は、今までで一番スクスクと育っています。元肥にチッソ肥料が入っていないので、少し痩せて色が薄くなり過ぎてきました。明日は収穫時に硝酸態チッソが残らない程度に液肥（かつおソリューブル）をかけてあげようかと思っています。

薪ストーブの心地よい暖かさで、人も作物も癒されています。



茂木プレートによる三次燃焼方式

大変なスグレモノ!!モ キ製作所の『無煙薪 ストーブ』

化石燃料や電気は出来るだけ使いたくなかった
ので、温室の暖房は、最初ソーラーにしよう
かと思ったけれど、地元の人のお話しでは、苗
作りの時期、こちら辺は日照時間が短かく、あ
まり有効ではないとの事で諦めました。

それで去年はホームックで買ってきた安価な
薪ストーブを付けて見ましたが、すぐ燃え尽き
てしまうので、夜は苗に必要な熱量を確保でき



去年の薪割り風景です。今年は無料でいただけ
たので楽できました。

ません。夜2〜3時間おきに薪を補充に行くのも大変なことで、灯油や電気に100パーセント頼らざるを得なくなるのです。それでは、環境にやさしい自給的農業から遠ざかってしまいます。

そこで見つけたのが、モキ製作所の『無煙薪ストーブ』。

「独自の三次燃焼方式によって、高温・完全燃焼・クリーンな排気を実現！」と言うキャッチコピーに惹かれ、大枚はたいて買ってみました。夜10時に思いっきり薪を入れておくと、朝5時頃までは適温を保ってくれます。薪は無料でいくらでも戴ける場所があったので、大して省エネなのです。睡眠不足にもならないですんでいます。

川合肥料さん来訪

お世話になっている川合肥料さんが、苗を作る為の土づくりをしているところに見えられました。

「全国まわっても、有機農法や自然農法をされている方でも、自分で苗作りをしているところは、ほとんどなくて、しかも培養土まで自前と言うのはびっくり！」

との事。

「どんなふう^に土づくりをされているんです

か？土壤分析されているんですか」

「いいえ、一度もしたことはありません。〇-1^{ゼロワン}テストで、作物の種類に合わせて配合しています。ポット移植する時も、作物の成長度合いに合わせて、また、別の培養土を配合しています。種もほとんど自家採種しています」

川合さん、「????????う〜ん。土壤分析した方が良いと思いますよ」

〇-1テストなんて言われてもきつと理解できなかったと思います。2回も「土壤分析した方がいいですよ」と言われてしまいました。なにしろ川合肥料さんは、名前の通り、培養土も作っておられるプロの肥料屋さんですから・・・

まほろば農園の培養土

〇-1テストで作っている主人に聞いてみると、基本的な原材料として、

【発芽用培養土】

まほろば農園の土、自家製モミガラ堆肥、燻炭、草木灰、腐植酸、バーミキュライト、ピートモス、ビール酵母、エリクサー発酵液、総合ミネラル、エリクサー水

【ポット移植用培養土】

まほろば農園の土、自家製モミガラ堆肥、燻炭、



ブラドミン（ぼかし堆肥）、バッドグアノ、陸王（マグネシウム主体のミネラル）、貝化石カルシウム、草木灰、腐植酸、バーミキュライト、ピートモス、総合ミネラル、エリクサー発酵液、エリクサー水

など使っているそうです。

自家製モミガラ堆肥の中には、まほろばオリジナル醤油『新びしお』の醤油カス、ヌカ、エリクサー発酵液、なども入っています。

根本義は土づくりと自家採種

あまりにもオリジナル過ぎて、川合さんには余計理解できないかも知れません。0-1テスト農法は、実績で示すしかありません。

しかし、自然農薬や栽培技術も大切だけれど、《根本義は土づくり》という点では完全に一致することが出来ました。私はそれに《自家採種》も加えます。

栽培技術や管理が課題

まほろばは、土づくりや自家採種は熱心にやっていますが、栽培技術や管理が行き届かないのが課題です。作付計画に、実際の能力が追いついて行っていないな・・・という感じです。何度も何度も下方修正しながら進んでいます。

そこに主人が、柔らかくて美味しいネギが食べたいから作ろうというので、上方修正になってしまいました。言い出しつpegが頑張ってくださいね！！

初めての<ごんべい>

毎年、3月のはじめに、外はまだ雪のある寒いうちに、ハウスの中に青菜類を播きます。

薪ストーブと温室のある方のハウスに播いた小松菜は、種まきは熟練の池田さんが播いて、きれいに発芽しました。

やや遅れて、ストーブのない方のハウスに主人が播きました。

そこはまだ乾きが悪いのに早く耕し過ぎて、





池田さんが播いた所



主人が播いた所

土の状態が悪く、しかも、初めて<ごんべい>という手押し式の種播き機を使いました。「発芽するかな？」しかし、見事に発芽してくれて、(多すぎました)間引くのが大変でした。でも一生懸命蒔いてくれたのです。

始めてではないと言い張る夫

「あなたのこと書いたわよ〜」と言うと、主人は、ごんべいを使ったのは初めてではなくて、「小別沢農園一年目の時にソバを1町5反、畑一面に播いたじゃないか」と、どうも初心者扱いされたくないらしい。

でも私から言わせれば、ソバは花咲か爺さんのようにバラまいても、どんなに痩せた土地でも発芽する難易度マイナスウルトラCで、初めてでないことは、間違いないけれど、実質的に

は初めてと書いてもその方が真実に近いと思うのです。

でも、主人の気持ちを尊重して、ソバの事も書くことにしました。それに、その時の大量のソバの実は、大晦日に、お客様の年越し蕎麦になったり、感謝デーの生蕎麦になったりとずいぶん活躍し、喜ばれたものです。まほろばホームページのトップ画面の農園部分は一面に咲いたソバの花になっています。

すっかり忘れていました。

また、主人が横から口をはさみます。

「エゴマも播いたよ！」

そういえばそうでした。

思い起こせば、初めての<ごんべい>などと書いて本当に「ごめんなさい」でした。



間引きながら思ったこと

間引きは、成長の遅い物や、徒長したもの、葉っぱの色の悪い物、葉っぱの形の悪い物など、混雑したところを間引いていきます。みんな育ててあげたいけれど、密植していると、みんなひよろひよろになってしまうので仕方ないのです。

人間でいえば、エリートだけを選抜育成して、それ以外を殺していることになります。

「これって……人間社会では、優性保護法の過ちが反省されている時に……」

などと考えながら……農業の本質を改めて考え直すきっかけになっています。

近視眼的にみると残酷ですが

しかし、間引かれて捨てられたものも、やがて土に還り、新たな植物の肥料となって、次の世代を育てていきます。大自然の大きなエネルギー循環の流れの中にあるのです。今、この時だけを見ると、残酷に見えることも、悠久の流れの中では、大自然の秩序から外れているわけではありません。それは視野の狭さゆえのオセシチかもしれません。

しかし、今、この時もリアルな現実なので、間引きしたものの一部を家に持って帰り、生野菜サラダのトッピングにしました。今年、初め



(上) 真空播種機でブロッコリーの種まきをする主人。(右下) サニーレタスの種を手播きしている私

での収穫です。作っている人にしか味わえない感動です。一部だけでも人間に生まれ変われますように……

播種機があるのにレタス系の種だけは一粒ひとつぶ手播きしています。レタスの種は、あまりにも小さくて、薄くて、軽くて、機械にかかりにくいからです。コーティングした大きい種を買う事も出来ますが、自家採種の種にこだわっています。今回は、128穴×14プラグトレイ=1392個播く予定です。

男の人たちは、細かい仕事は好きではないのでこれは私の仕事です。私も好きなわけではないのですが……結着剤とか使わないで、天然材料だけで、自前でコーティングできる方法はないか模索している所です。



〈必要は生みの母〉、きっとどこかに答えがあるはずです。

越冬赤カブあるかしら？

去年、遅くに播きすぎて大きくなれなかった赤カブが雪の下から見えて来たかも知れません。感謝デーに出荷できるかどうか、これから

見てくることにします。

それでは皆様、今年もよろしくお願い致します。

下は主人の書いた私のお気に入りの字です。
「お父さん、いい字だから額に入れて飾ったら」

と言うと、カレンダーの裏に書いたとい
うので、がっかりしています。

